

# 教会創立記念礼拝

2024年10月6日(日) 午前10時30分  
午後4時

司式 牧師 姜 徑米  
奏楽 河野和雄 香西愛

前 奏  
招 詞 ハバクク書 2章20節  
讃 詠 546  
主の祈り  
聖 書 マラキ書 3章1～3節 (旧1499)  
コリントの信徒への手紙一  
3章10～23節(新302)  
祈 禱  
使徒信条  
讃 美 歌 195  
説 教 「教会の土台」 牧師 高橋和人  
祈 禱  
讃 美 歌 II111  
聖 餐 式  
献 金  
頌 栄 544  
祝 禱  
後 奏

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。  
礼拝は前の方から静かに着席しましょう。

## 10月の祈り

主の御心によってキリストの体としての教会がここに立てられ、御言葉に立ち、宣教の使命に生き、主の導きによって今に至るまで守られて来たことに感謝し、世の終わりまで、時が良くても悪くても、御言葉を宣べ伝え、希望をもって歩に歩むことができるように。

礼拝諸集会と各部会、部門会、教会学校、幼稚園の働きが力づけられるように。

平和を求める祈りが力づけられるように。

### 今日の祈り

田園調布教会創立93周年の恵みを覚え、時代の危機と困難を乗り越え、新たな歩みが力づけられ、祝されるように。

弱っている兄弟姉妹にみ手が与えられ支えられるように。

「教会の土台」 高橋和人

コリントの信徒への手紙一 3章10～23節

教会はイエス・キリストという土台の上に立てられている。パウロは使徒としてその土台を据えた。使徒としての特別な働きであった。教会はキリストの上に立てられるがそれを土台とするために使徒の務めがある。これは今も変わらない。

どのように建てるか注意しなければならない。土台が重要、その上に金からわらまで様々な素材で建てられる。そしてかの日に火で吟味される。「その人は火の中をくぐり抜けたように救われる」と言われる。教会は人であり、建物や組織ではない。

その人が神の神殿とされている。教会は一人ひとりが神の霊が内に住むものの集まりだ。それは自分

が問われることだ。神殿を壊すものは滅ぼされる。自分を欺いてはならない、人間を誇ってはならないと言われる。神殿を壊すものは人の知恵だ。人の知恵によって教会を立てることは誘惑だ。誇りの誘惑に欺かれてはならない。

そして、「本当に知恵あるものになるために愚かなものになりなさい」と言われる。

愚かなことは、失敗したり、間違ったりすること。弱く小さいことだ。それは人の求める価値を転換することになる。しかし、そこには神の御手が必要とする自分がある。それは神と共に生きることを求める生き方になる。

人の賢さは人の求める価値を手に入れることにあつる。大きく強く高く豊かで満足のゆくものになることだ。それは賢く見え、執着をもたらずがむなし

い。キリストを知らなければ愚かさを知ることにはできない。愚かさを知ることによって神の前に自分を低くするすべを知ることができる。神の前での謙遜をもたらす。そこに本来の人の姿がある。

人間を誇ることを止めたとき、パウロは「全てはあなたがたのもの…」そして「あなたがたはキリストのもの、キリストは神のもの」という。これは礼拝にあらわれる。教会は礼拝の共同体。礼拝は人の誇りや人の賢さや知恵では成り立たない。

むしろ、低く、小さく、愚かであることを知る者には神がすべてを与えてくださっている恵みを知ることができる。キリストがすべてと分かるのは愚かさによる。人の知恵によらない。神が選ばれるはずもない小さいものをお選びになるからだ。そこに礼拝者が生まれ、教会が立つことになる。